

# 社会資本総合整備計画

やまのべちく だい2き としさいせいせいびけいかく  
山辺地区(第2期)都市再生整備計画

やまがた やまのべまち  
山形県 山辺町

平成27年1月

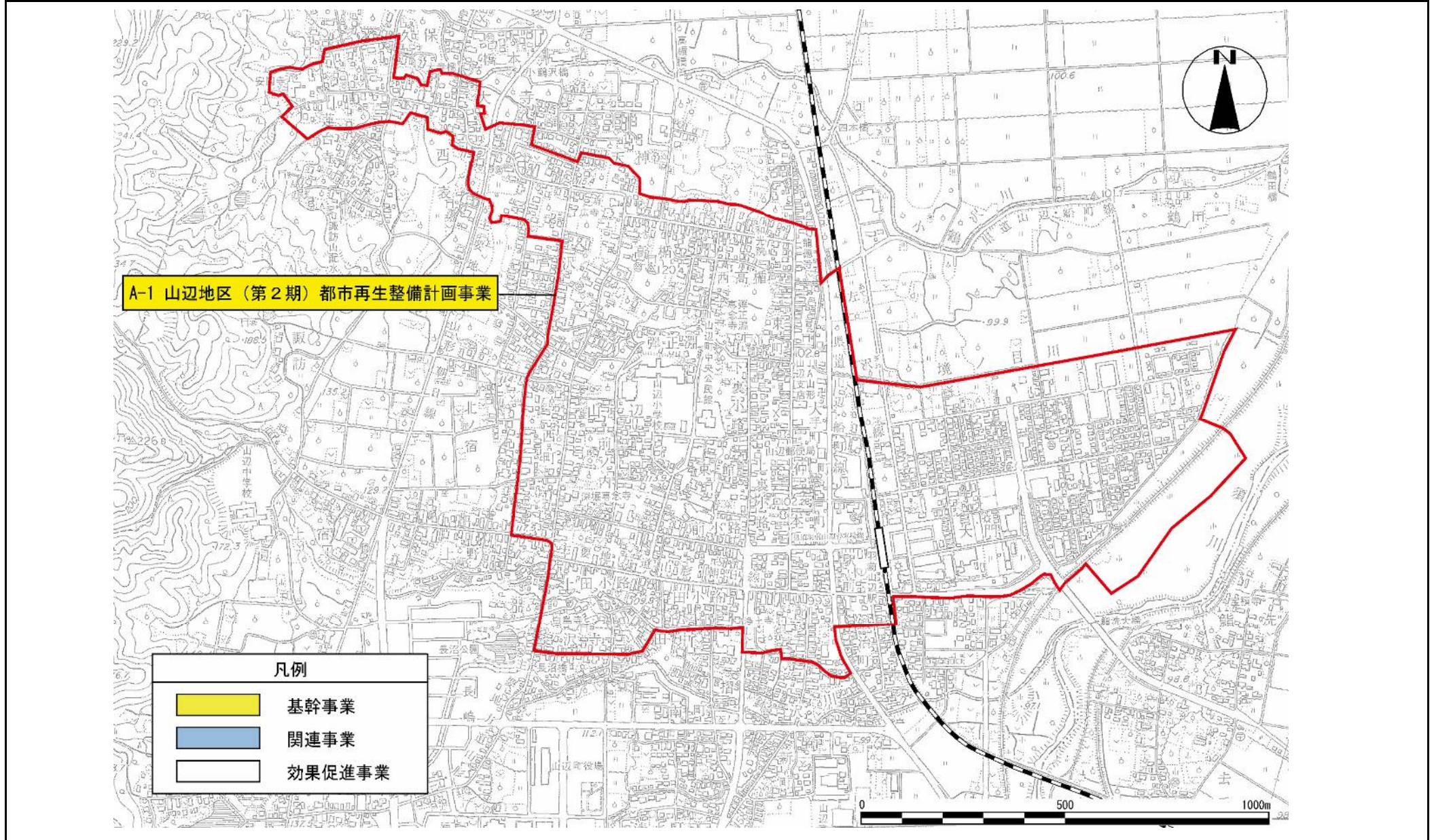
社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成 年 月

計画の名称	山辺地区（第2期）都市再生整備計画														
計画の期間	平成27年度～平成31年度（5年間）					交付対象	山辺町								
計画の目標	<p>大目標：本町の発展を牽引する中心市街地としての賑わい・活力の創出</p> <p>目標1：豊かな地域資源を活用した観光交流の促進</p> <p>目標2：多くの観光客や住民が利用する商業地の再生</p> <p>目標3：地区の住民や事業者によるまちの活性化</p>														
計画の成果目標（定量的指標）	<p>○観光客数の増加</p> <p>○観光案内所（窓口）の利用者数の増加</p> <p>○商店街の空き店舗の減少</p>														
定量的指標の定義及び算定式											備考				
										定量的指標の現況値及び目標値	備考				
										当初現況値 (H25当初)	中間目標値 -	最終目標値 (H31末)			
観光客数の増加（人/年）										204,500	-	240,000			
観光案内所（窓口）利用者数（人/年）										949	-	1,600			
仲町・本町通り空き店舗数（店）										14	-	11			
全体事業費	合計 (A+B+C)	371百万円	A	371百万円 うち提案分 48百万円	B	0百万円	C	000百万円	効果促進事業費の割合 (A(提案事業分)+C)/(A+B+C)		13.0%				
<b>交付対象事業</b>															
<b>A1 基幹事業</b>															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
A-1	都市再生	一般	山辺町	直接	山辺町	山辺地区(第2期)都市再生整備計画事業	公園、地域生活基盤施設等 139.4ha	山辺町						371	別添1
合計												371			
<b>B 関連社会資本整備事業</b>															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計												0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				
<b>C 効果促進事業</b>															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計												0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	山辺地区（第2期）都市再生整備計画		
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度（5年間）	交付対象	山辺町



# 都市再生整備計画

山辺地区(第2期)

山形県 山辺町

平成27年1月



## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	やまのべまち 山辺町	地区名	やまのべまち たい き 山辺地区(第2期)	面積	139.4 ha
計画期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度				

### 目標

- 大目標:本町の発展を牽引する中心市街地としての賑わい・活力の創出  
 目標1:豊かな地域資源を活用した観光交流の促進  
 目標2:多くの観光客や住民が利用する商業地の再生  
 目標3:地区の住民や事業者によるまちの活性化

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

○本地区は、本町の発展を牽引し、周辺を含む住民の日常生活を支えてきた中心市街地を含み、地区東部に位置するJR羽前山辺駅は本町唯一の鉄道駅であり、本町の玄関となっている。これからも本町におけるコンパクトな市街地環境の形成における行政機能や商業機能などが集積した「中心拠点」としての役割が位置づけられている。  
 ○本地区は、城下町などとして栄え、地区内には多くの歴史・文化資源が残っている。なかでも、山野辺城址と高楯城址は、400mほどしか離れておらず、全国的にみても珍しい。このほか、室町時代の1356年に全国66箇国に設けた一国一個寺のひとつである安国寺、稚児行列で有名な三社祭りの天満神社、江戸後期に建てられ建築学的にも重要な旧山野辺陣屋玄関、常設国際司法裁判所所長を努めた安達峰一郎生家などもあり、まちなかには城下町の面影を残す路地などが残っている。さらに豪商の土蔵を修理、復元し、これら観光に関する情報発信元としての機能を持つ「ふるさと資料館」や観光案内所「すだまり」があり、平成25年には旧旅館を活用したふるさと交流センター「あがらっしやい」がオープンしている。また、JR東側の須川河川敷には、パークゴルフ場などが整備され、平日でも多くの利用者で賑わっている。  
 ○本町はニットなどの繊維産業が町の発展を支えてきたが、近年は衰退傾向にあるものの、まちの伝統と文化を象徴するものであり、地区内には洋風で趣があり、皇室や迎賓館に納めるなど国内有数の手織絹通(絨毯)で有名なオリエンタルカーベット社があり、駅東側には、ニットなどの繊維製品を扱う工場が複数立地している。また観光案内所隣には、これら町内の製造工場から直送したニット製品を販売するニット館「すだまり」がある。  
 ○しかし、県都山形市に隣接し、中心部まで車で15分という利便性の高さや、大型店の進出及び住宅地の拡大などの影響により、本地区の中心性が低下しつつある。特に商店街では、店主の高齢化や後継者不足、競争力の低下などと相まって、販売額の低下や空き店舗化が進み、商店街の維持も難しくなっている。さらに、住民の減少・少子高齢化が進行しており、中心市街地に必要な賑わいや活力がみられなくなっている。  
 ○このような状況のなか、平成20年に地元活動組織であるYOUBASE会が発足され、行政と一緒に勉強会や事例視察、実践活動などを行う中で、まちなか再生を様々な事業制度などとの組み合わせで実現することを考え、連携した取り組みを展開する事としており、平成24年度には駅前の空き店舗を利用したイベント「よらっしやい亭」を地元の山辺高校との協働で開催している。  
 ○また、町では平成22年に「地域資源や都市ストックを活用した町民が誇りを持てる「まちの顔」としての再生」を大目標に掲げた都市再生整備計画を策定(平成24年2月に第1回変更)し、ふるさと交流センター「あがらっしやい」をオープンさせるなど中心地の再生に取り組んできた。観光ルートの主軸となる都市計画道路城南大通り線の整備も進んでいる。その結果、近年は観光客数が増加するなど一定の成果が上がっている一方、小売業は衰退傾向が続いているなど、引き続き取り組むべき課題も顕在化している。

#### 課題

- さらなる観光客の増加  
 第1期計画に基づくふるさと交流センター「あがらっしやい」や情報板、沿道景観の整備などによって、観光資源個々の情報発信や環境充実が図れた面はあるが、各観光資源が連携した施策が不十分となっている。さらに多くの人々が本地区を観光に訪れるよう、JR羽前山辺駅東側の資源も活用しながら第1期計画の取り組みを継承、発展させた、観光資源の連携強化、回遊性の向上などが課題となっている。
- 商業機能の再生  
 本地区の商業機能は低下しているが、本地区が担っている「周辺も含めた住民の日常生活を支える」という役割は、住民の高齢化などを踏まえると今後ますます重要になると考えられる。また、増加を目指す観光客を受け入れ、地域経済に反映できる店舗など商業施設の充実が、町の発展を牽引する役割を担う本地区には不可欠である。そのため、地区外からも訪れやすく、高齢者等も買い物しやすい環境整備を行い、商店街を中心とする商業機能を再生させることが課題となっている。
- 住民・事業者による活性化  
 まちを活性化するためには、主役である住民や事業者が主体となったまちづくりが不可欠である。地区の衰退や高齢化などを踏まえて、住民や事業者が心身ともにやる気をもってまちづくりに取り組むことができるような環境の充実が課題となっている。

#### 将来ビジョン(中長期)

○「第4次山辺町総合計画」(平成19年度～平成29年度)では、本地区の大部分は、行政機能、商業機能、産業・情報機能、文化・教育機能等の集積による本町の中心地となる「中心拠点」に位置づけられており、本地区に集積する商業系土地利用については、「事業主や組織による主体的な事業展開への集中支援を通した既存商店街の活性化を図るほか、空き店舗について商業機能を含め地域に活力を及ぼす多目的な活用と支援策導入を検討促進していきます。」としている。特に中心商業機能については「高齢社会に対応した中心商業機能の再構築」として、「高齢社会を見据え消費生活面でも自立した地域の形成(コンパクトなまちづくりの推進)」「街の賑わいつくりのために参画・協力しあう体制づくり(地域全体での協働意識、賑わいつくり、若い経営者への支援など)」が施策として位置づけられている。また、観光については、本地区にも多く存在する「地域資源を活用した特徴ある観光サービスの推進」のほか、「町民参加型・街並み回遊型の観光推進」などが実施する施策として位置づけられている。  
 ○「山辺町都市計画マスタープラン」(目標年次:平成32年)では、本地区の大部分は、コンパクトな市街地環境の形成において、行政機能や商業機能などが集積した「中心拠点」として、また、歴史的拠点、交流を誘導する拠点、行政・スポーツ・文化・憩いの拠点を整備し、それぞれの連携による生活環境の快適さを高め、「本町の顔」を創出する「市街地拠点創出ゾーン」に位置づけられている。  
 ○「山形広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(目標年次:平成42年)では、本地区は「業務地」として、「市民ニーズの高度化に対応する商業地として、商業、サービス施設等が集約的に立地する地域生活の中心となる生活拠点の適切な配置」、「歴史的文化的資産に配慮したまちづくりを行うことにより、個性的で魅力あるまちの中心地としての育成」が位置づけられている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
観光客数	人/年	本町の年間観光客数	本地区は本町の玄関であり、多くの観光資源も集積しているため、町全体の観光客数を指標としその増加を目指す。	204,500	240,000
観光案内所(窓口)利用者数	人/年	観光交流センター内観光案内所(窓口)の年間利用者数	利便性の向上を図り、さらなる観光客の増加を目指す。	949	1,600
空き店舗数	店	仲通・本通り商店街の空き店舗数	商店街の魅力化のひとつに空き店舗をそのままにしておかない状況が必要であり、利活用するなど空き店舗数の減少を目指す。	14	11

## 都市再生整備計画の整備方針等

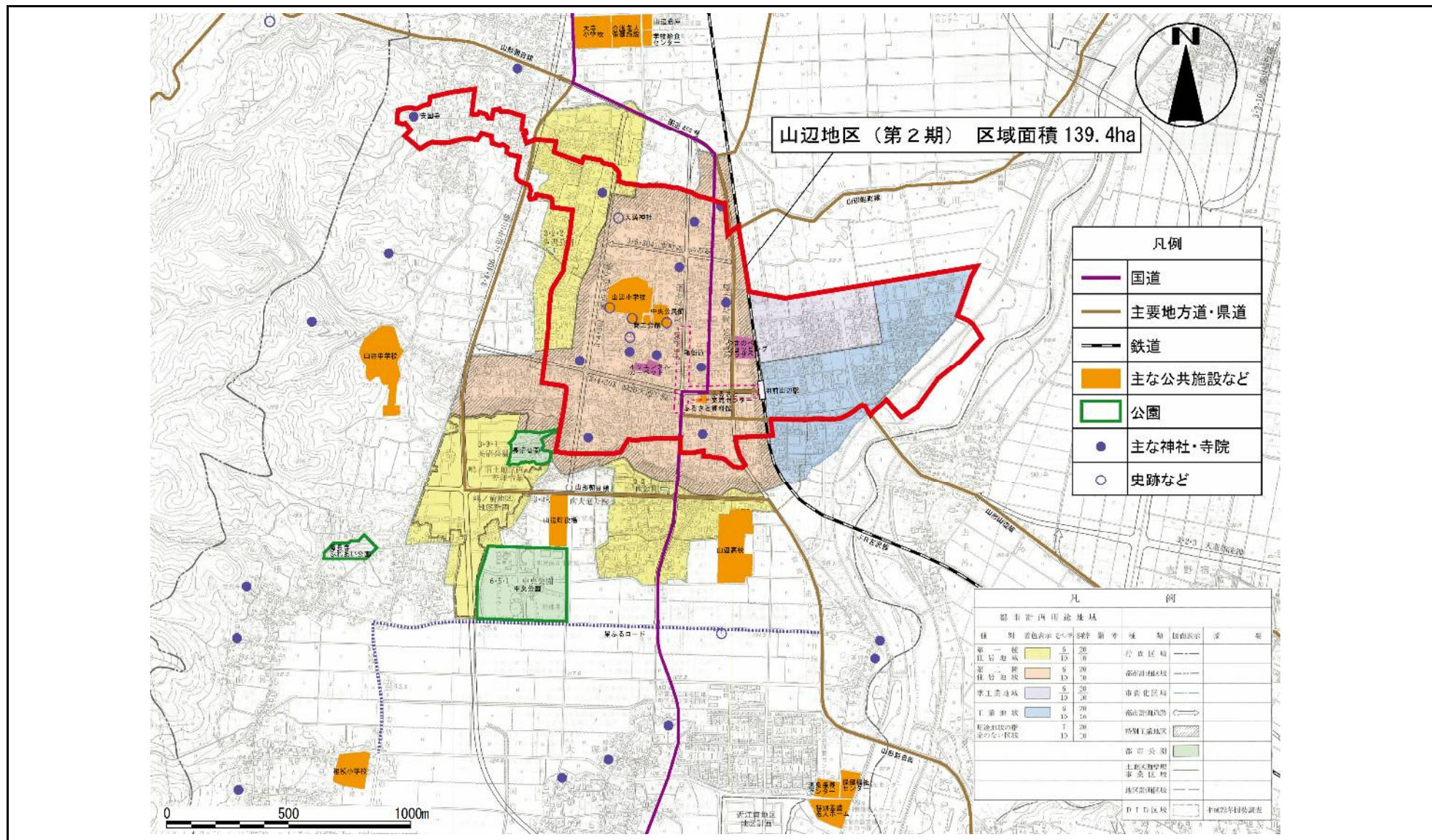
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1【魅力・回遊性・利便性の向上など観光に配慮した環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの人が利用しているふるさと交流センター「あがらっしやい」や須川河川敷のレクリエーション機能などを充実させる。</li> <li>○観光に関する総合的な情報発信のほか、伝統産業である繊維製品の販売・PRなどにも寄与する観光交流センターを町の顔となる駅前に整備する。</li> <li>○観光客の移動に配慮した環境を充実させる。</li> <li>○街なか観光支援を実施する団体への支援を行う。</li> <li>○回遊性を高める魅力的な観光マップを作成する。</li> <li>○JR羽前山辺駅東西の資源を活かしたイベントを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場駐車場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐輪場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐車場整備事業)</li> <li>・高次都市施設(基幹事業:観光交流センター整備事業)</li> <li>・地域創造支援事業(提案事業:羽前山辺駅改築事業)</li> <li>・まちづくり活動推進事業(提案事業:レンタサイクル社会実験)</li> <li>・まちづくり活動推進事業(提案事業:まち歩きマップ作成助成事業)</li> <li>・まちづくり活動推進事業(提案事業:ニットイベント開催支援事業)</li> </ul>
<p>■整備方針2【訪れやすく買い物しやすい商業地としての環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地区外からの買い物客や観光客も商店街を訪れやすい環境を整備する。</li> <li>○都市計画街路事業に基づき県道の拡幅を行い道路の利便性向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐輪場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前駐車場整備事業)</li> <li>・地域創造支援事業(提案事業:羽前山辺駅改築事業)</li> <li>・都市計画街路事業(関連事業:3・4・303号城南大通り線道路改築事業)</li> </ul>
<p>■整備方針3【住民などがまちづくりに取り組むことができる環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○イベント等まちづくり活動の場となり、まちづくりに取り組む住民等の健康増進・体力向上にも寄与する広場を整備する。</li> <li>○地区住民・事業者が主体となったまちづくり活動等に対する支援を行う。</li> <li>○各種の事業を円滑に進め、目標に向かって確実な効果をあげるために、事業効果分析を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:大門東部多目的広場駐車場整備事業)</li> <li>・地域生活基盤施設(基幹事業:駅前広場整備事業)</li> <li>・事業活用調査(提案事業:事業効果分析)</li> <li>・まちづくり活動推進事業(提案事業:ニットイベント開催支援事業)</li> </ul>
<p>その他</p>	
<p>○山辺の歴史・文化</p> <p>山辺町の歴史は古く、840年ごろに出羽郡司だった小野良実が山野辺城を築いたとされており、小野良実はい小野小町の父親とされる人物で、山辺町には小町手植えとされる愛宕神社の大杉や小町が産湯に使った泉が残されている。奈良時代にはすでに糸里制が取られ早くから開けてきた地域で、1356年には全国66か寺建立された安国寺の一つがある。最上舟運が盛んだった町で紅花などを扱ひ豪商となる商人も現れ、山間部で「からむし」を栽培し織物として上方まで運ばれていた。当時をしのばせる催しの雛街道があり、昔の雛人形を飾る。</p> <p>山辺町は森と湖沼の町と言われるように県民の森に13の湖沼があるなど、自然豊かで山間部にはまんだらの里の作谷沢や「日本の棚田百選」に選ばれた大蔵地区の棚田、室町時代に造られ山形県内最古のため池で、玉虫姫伝説が残る玉虫沼のほか、NHK大河ドラマ「天地人」でも取り上げられ、最上軍と上杉軍の最初の激戦地、直江兼続率いる上杉勢約2万の大軍を迎え撃った畑谷城址がある。また、山辺町から眺める山形市の夜景は「星降る道」として有名である。</p> <p>一方、町の基幹産業で発展を支えてきたニットなどの繊維産業は衰退傾向となっているが、洋風な建物で趣のある手織緞通(絨毯)で有名なオリエンタルカーベット社のほか、全国的に珍しい400mほどしか離れていない山野辺城址と高橋城址、江戸後期に建てられ建築学的にも重要な旧山野辺陣屋玄関、常設国際司法裁判所所長を努めた安達峰一郎生家、歴史・文化の発信地となっているふるさと資料館などがある。</p> <p>また、多くの社寺があり、天満神社、諏訪神社、愛宕神社の三社祭りで行われる稚児行列は有名である。</p> <p>城下町ということもあり、道路が三又路や喰い違いとなっており、安易に直進できない工夫がなされている。また、坂道や石垣も多く残されている。このような道と歴史的建物がそのまま残されているのが、まちなかの大きな特徴となっている。</p> <p>山辺の特産品としては、手織絨毯やファッションニットの他、品質の高いさくらんぼや山辺の湧水で育ったわさび、古くから伝えられてきた鯉料理などがある。</p> <p>○まちづくり活動</p> <p>山辺町ではまちづくり活動がようやく根付いてきたところであり、その一つに平成20年に発足したYOUBASE会の活動がある。</p> <p>発足は平成20年となっているが、活動については平成17年より始めており、東北芸術工科大学との連携などから、まち歩きや学生との意見交換会、勉強会などを開催し、このような活動が実を結び形で発足にいたっている。この会は、まちなかを元気にしよう計画づくりだけでなく実践活動も行っており、これまで、まちなか再生の計画づくりを柱に、実践活動として住民から要望が強かった駅前通路の照明を検討し、現在1基の設置を行っている。また、まちづくり事例の視察も積極的に行い、意見交換やまちづくりに関しての勉強も行っており、平成24年度には駅前の空き店舗を利用したイベント「よらっしやい亭」を地元の山辺高校との協働で開催している。</p> <p>このように町と一緒に勉強会や視察、実践活動などを行う中で、まちなか再生を様々な事業制度などとの組み合わせで実現することを考え、連携した取り組みを展開してきている。</p> <p>○公有地の既存ストック活用検討については、「山辺町公有地利用基本方針【平成26年度制定】の基本方針に基づき遊休財産の計画的な処分・歳入確保を検討・実施しておりますが、現在の羽前山辺駅周辺の正面に損壊したままの住居が目の前に鎮座し、景観を著しく損ねております。この私有地を公有地として購入し活用することにより、駅周辺を集客を目指す市街地への玄関口(ゲートウェイ)として諸施設の整備と併せて駅近傍の空間構成を作り替えることが出来ることから、公有地の有効活用が望めます。</p>	





都市再生整備計画の区域

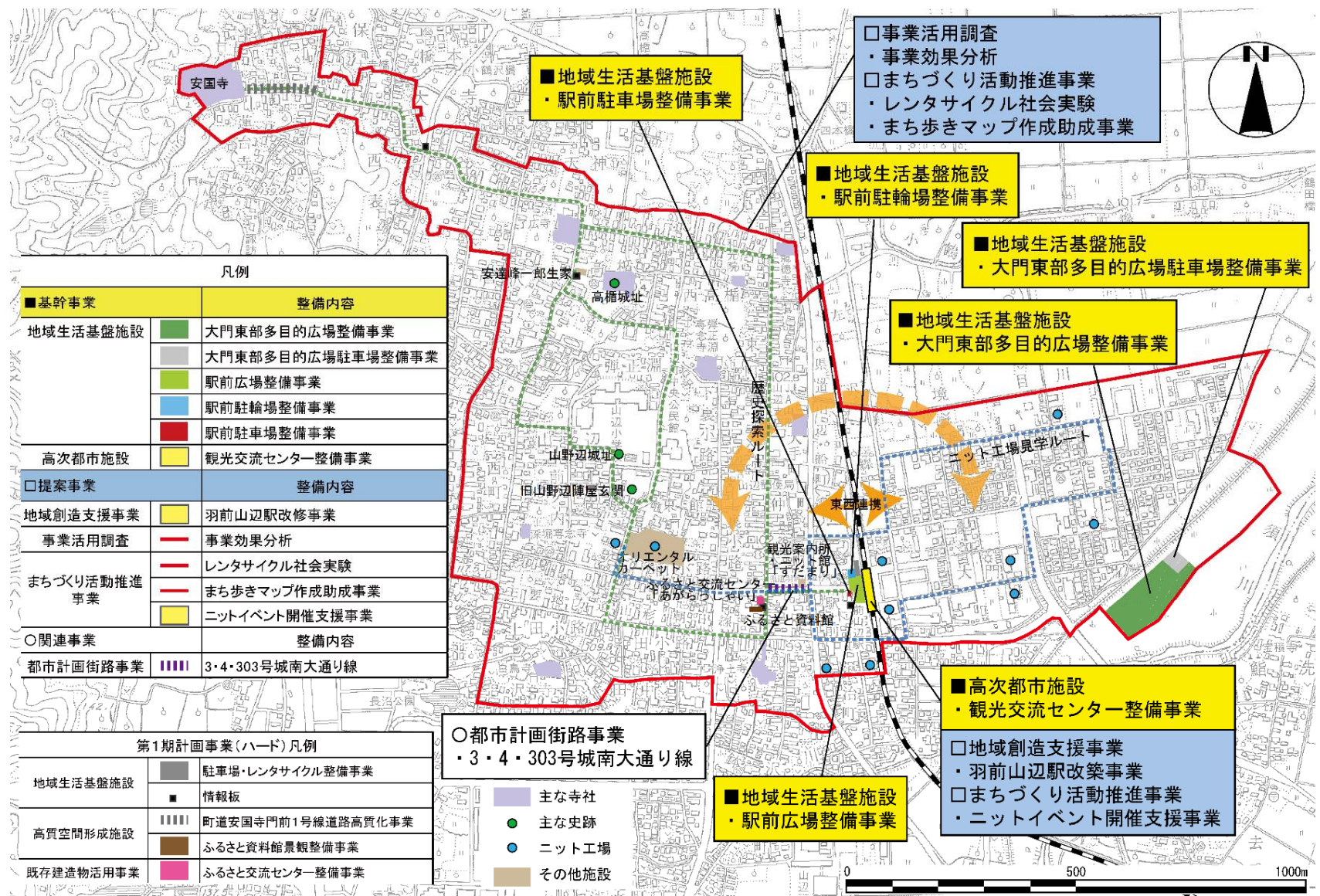
山辺地区(第2期)(山形県山辺町)	面積	139.4 ha	区域	大字山辺の一部
-------------------	----	----------	----	---------





# 山辺地区(第2期)(山形県山辺町) 整備方針概要図

目標	本町の発展を牽引する中心市街地としての賑わい・活力の創出	代表的な指標	観光客数 (人/年)	204,500 (25年度)	→	240,000 (31年度)
			光案内所(窓口)利用者数 (人/年)	949 (25年度)	→	1,600 (31年度)
			商店街の空き店舗数 (店)	14 (25年度)	→	11 (31年度)



凡例	
■ 基幹事業	整備内容
地域生活基盤施設	■ 大門東部多目的広場整備事業
	■ 大門東部多目的広場駐車場整備事業
	■ 駅前広場整備事業
	■ 駅前駐輪場整備事業
	■ 駅前駐車場整備事業
高次都市施設	■ 観光交流センター整備事業
□ 提案事業	整備内容
地域創造支援事業	■ 羽前山辺駅改修事業
事業活用調査	■ 事業効果分析
	■ レンタサイクル社会実験
まちづくり活動推進事業	■ まち歩きマップ作成助成事業
	■ ニットイベント開催支援事業
○ 関連事業	整備内容
都市計画街路事業	■ 3・4・303号城南大通り線

第1期計画事業(ハード)凡例	
地域生活基盤施設	■ 駐車場・レンタサイクル整備事業
	■ 情報板
高質空間形成施設	■ 町道安国寺門前1号線道路高質化事業
	■ ふるさと資料館景観整備事業
既存建造物活用事業	■ ふるさと交流センター整備事業

○ 都市計画街路事業  
・ 3・4・303号城南大通り線

- 主な寺社
- 主な史跡
- ニット工場
- その他施設

□ 事業活用調査  
・ 事業効果分析  
□ まちづくり活動推進事業  
・ レンタサイクル社会実験  
・ まち歩きマップ作成助成事業

■ 地域生活基盤施設  
・ 駅前駐輪場整備事業

■ 地域生活基盤施設  
・ 大門東部多目的広場駐車場整備事業

■ 地域生活基盤施設  
・ 大門東部多目的広場整備事業

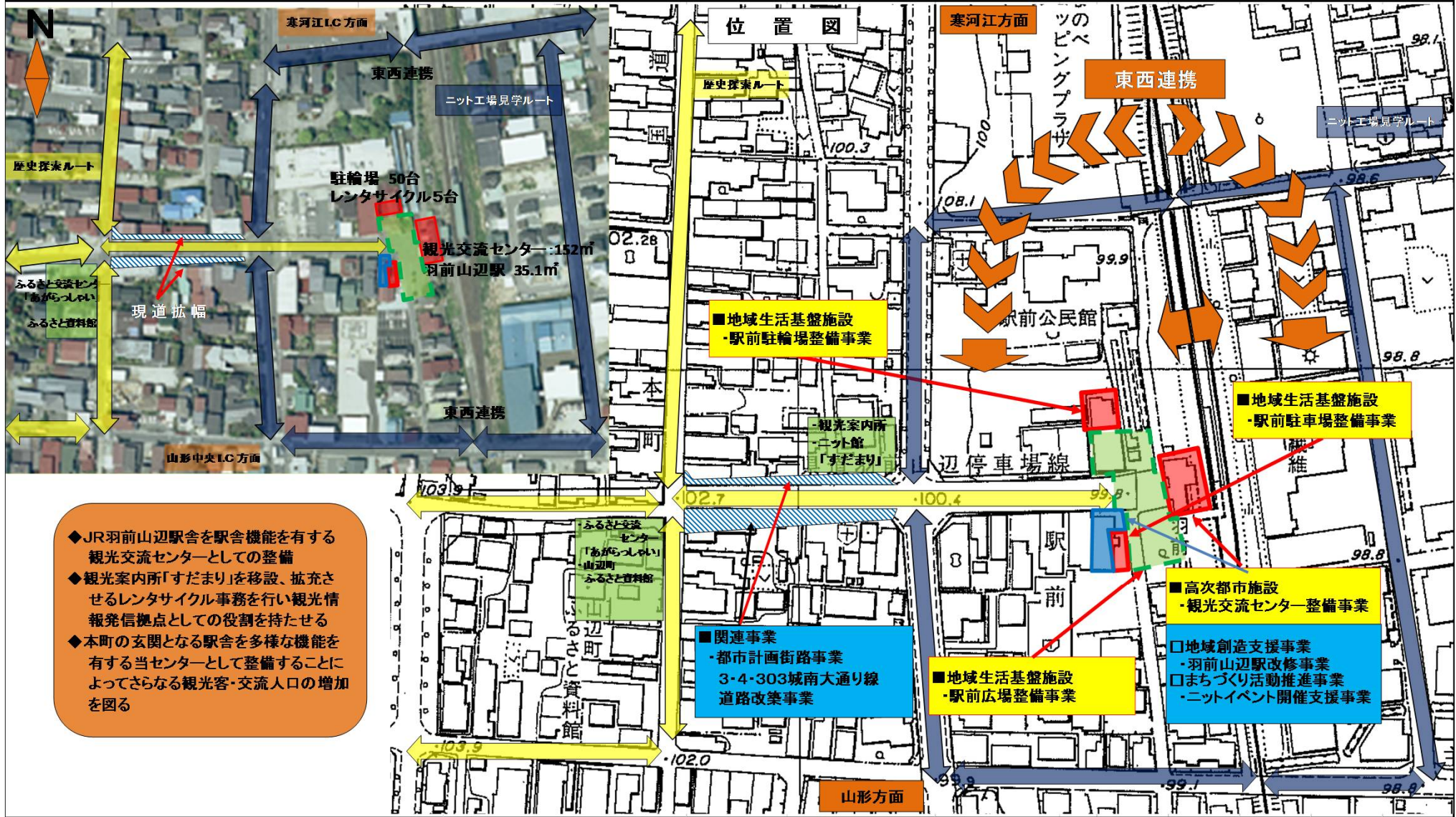
■ 高次都市施設  
・ 観光交流センター整備事業

□ 地域創造支援事業  
・ 羽前山辺駅改修事業  
□ まちづくり活動推進事業  
・ ニットイベント開催支援事業

■ 地域生活基盤施設  
・ 駅前広場整備事業



事業名	駅前整備関連図
内容	駅周辺の整備、県で実施中の街路整備など合わせ、総合的な観光及び情報発信拠点とし、一体的なまちづくり、魅力的な空間整備、核となる施設整備を図ることにより、人口減少が見え始めた今、さらなる観光客、交流人口の増加等、相乗効果をもたらし、賑わいの創出、「まちなか」活性化を図る



- ◆ JR羽前山辺駅舎を駅舎機能を有する観光交流センターとしての整備
- ◆ 観光案内所「すだまり」を移設、拡充させるレンタサイクル事務を行い観光情報発信拠点としての役割を持たせる
- ◆ 本町の玄関となる駅舎を多様な機能を有する当センターとして整備することによってさらなる観光客・交流人口の増加を図る